

図書館システムのデータ移行問題検討会の延長について

(1) 公共図書館における図書館システムの現状と課題

多くの公共図書館でコンピュータシステムが導入され、蔵書管理や貸出管理、またホームページサービスなどに活用されています。図書館システムは今や図書館業務のために欠くことのできない基盤の 1 つとなっています。

多彩なアイデアとそれを具現化する機器やソフトウェアの開発によって図書館システムは現在も発展を続けています。公共図書館の多くは費用面や製品的特性などからこれらシステムをリース契約により導入しているため、リース期間が満了する 5 年程で次期システムへの更新を行うことが一般的です。

システム更新は図書館サービスを進化させる好機でもあるので、各地の図書館は更新を繰り返しながらサービス基盤を進化させてきました。各社が長い期間をかけて工夫を重ねてきた図書館システムは、サービス品質の向上や業務の効率化を支えています。

日々変化・蓄積される情報は、それ自体が図書館業務を継続して行うために不可欠なものであり、安全・確実に次のシステムへ引き継がなければ業務への影響は避けられません。一方でソフトウェア商品ごとに内部の処理は最適化され互換性はないため、その移行には細心の注意を必要とします。そのためシステムの更新は、図書館サービスの全体的な最適化を希求する以前に、既存の情報をいかに引き継ぐかという部分に多くの労力が必要となっています。

(2) 図書館システムデータ移行問題検討会の設置経緯

図書館システムの更新を行うために課題となる、データ移行に係る労力と、その労力ゆえに生じる費用は、図書館とシステム納入事業者双方に負担となります。またそのことは、新たな機能や製品を取り入れる際に必要となる時間や人的資源への配分にも影響を与え、図書館事業の発展的進化の阻害要因ともなります。

個々のシステムの調達を通じて得た経験が、別のシステムへ移行する際にそのまま適用はできないことや、この問題を解決すべき効果的な手法を各図書館や自治体において開発することは難しいことから、日本図書館協会では理事会承認の下に図書館システムのデータ移行問題検討会を設置し 2015 年 10 月 1 日から検討を開始しました。

(3) 今までの検討状況

検討会では、5 回の集合会議と 1 回の有識者ヒアリングを行い、図書館システム更新時におけるデータ移行時における機能要求仕様書の適正化やその際に使用する用語の共通化などについて検討を進めてき

ました。

移行元から出力するファイル項目と移行先が取り込むファイル項目を揃えることで、各図書館が移行の都度仕様を策定する状況を改善し、データのスムーズな移行が行えるよう、データ移行に必要となるファイル出力項目の洗い出しを以下の5種類のデータについて行いました。

- (1) ローカルデータ移行出力項目
- (2) 利用者データ移行出力項目
- (3) 貸出データ移行出力項目
- (4) 予約データ移行出力項目
- (5) 発注データ**移行**出力項目

また発注側や受注側でそれぞれ用いる用語の捉え方の違いから生じるコミュニケーションロスを緩和するために、出力項目に基づいて用語リストの抽出とその解説作成の作業を行っています。

なお、これらの作成の狙いは異なるシステム間で情報を引継ぐための橋を架けることです。各社が開発している図書館システムパッケージや、今後新たに発表されるソフトウェアなどの技術的進化や改良、及び高度化を阻害しないものとするため、もともとのシステムが持っている内部的データ構造には触れないものとしています。

(4) 検討の現状：遅延理由

しかし、検討会委員は遠隔地に散在していて、集合会議を頻繁に開催することが出来ず、到達目標の合意にも必ずしも迅速に行えない検討状況でした。したがって当初のスケジュールどおりには作業は進捗せず、ファイル出力項目も数回の見直しが行われたに過ぎず、用語集も各ファイルからの抜き出し統合にとどまっており、いずれも更なる検討が必要です。

ただし、図書館システムのデータ移行に際しては、これら現在での標準的と思われるデータファイル出力項目や用語集を参考にして、図書館システム担当者のデータ移行に関する知見の深化とベンダーとの間の意思疎通の改善に充分資するものと期待できますので、是非とも委員会設置期間を2018年3月31日までに1年延長していただくようお願いします。

(5) 来年度計画

- ・夏ごろまで5種類のファイルデータ出力項目の完成度を向上させ、用語集を完成させる。
- ・今後は、一定水準のファイルデータ出力項目と用語集の運用方法などについて、図書館関係者との意見交換機会を作るための検討、及び成果等の報告方法等について検討する。

(成果物)

1. ローカルデータ移行出力項目
2. 予約データ移行出力項目
3. 発注データ移行出力項目
4. 貸出データ移行出力項目
5. 利用者データ移行出力項目
6. 用語ファイル

(参考例)

2015-12-29作成				
2016-05-22更新		予約データ移行出力項目		
2016-07-21更新				
2017-01-21更新				
2017-02-01更新				
共通事項	日付だけしかないときは、0:00をセットなど図書館側と協議して時間をセット			
項番	データ項目	データ内容	出力仕様	備考
1	予約種別区分	・単独 ・シリーズ(順位付) ・まとめて(どれか1冊) ・まとめて(すべて揃い) などの区分けを想定	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
2	予約ID	システムで発行される予約ID	text or integer	資料番号とは別にシステムで発行されるものを想定している。
3	枝予約ID	システムで発行される枝予約ID	text or integer	予約IDの枝番号で、予約種別の複数書誌への予約時の枝番号を出力するものを想定している。
4	書誌ID	システムで発行される書誌ID	text	
5	所蔵館指定	館コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。 所蔵館を特定した予約データを想定している。 リピータブルの場合は、区切り記号を出力側が別途記載する。
6	所蔵ID	システムで発行される資料ID	text or integer	資料特定予約を想定している。 資料番号とは別にシステムで発行されるものを想定している。
7	利用者ID	システムで発行される利用者ID	text or integer	資料番号とは別にシステムで発行されるものを想定している。
8	予約日時	日時	yyyy-mm-dd hh:mm:ss	
9	予約待ち期限日	年月日	yyyy-mm-dd	期限日を越えた場合は、予約データは削除される期限を想定している。
10	予約情報変更日	日時	yyyy-mm-dd hh:mm:ss	予約データを修正した日時を想定している。
11	予約受付館	館コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
12	予約受付窓口	窓口コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
13	予約受取館	館コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
14	予約受取窓口	窓口コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
15	予約連絡方法コード	電話、メールなどを想定	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
16	初期割当日時	日時	yyyy-mm-dd hh:mm:ss	貸出から返却されて最初に割り当たった日時を想定している。
17	初期割当館	館コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
18	初期割当窓口	窓口コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
19	割当資料ID	システムで発行される資料ID	text or integer	資料番号とは別にシステムで発行されるものを想定している。
20	最新処理日時	日時	yyyy-mm-dd hh:mm:ss	割当になった資料が移送処理、再度返却処理をされた日時を想定している。
21	最新処理館	館コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
22	最新処理窓口	窓口コード	integer(コード番号)	図書館がコードテーブルを作成する。
23	予約連絡日時	日時	yyyy-mm-dd hh:mm:ss	予約連絡処理日時を想定している。
24	予約取置期限日	年月日	yyyy-mm-dd	
25	備考1	文字列	text	利用者備考を想定している。
26	備考2	文字列	text	業務備考を想定している。